

# 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

## 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	河内長野市立三日市小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	「書く力」を育成するカリキュラムマネジメント

### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 1. 活動・研究の意義

本校は自然豊かな大阪府河内長野市にある児童数679名の中規模校である。今年度は研究テーマを「思わず書きたくなる指導を目指して～読むこと・書くことを一対として～」とした。全学年が国語の授業を中心に豊かな言語活動をおこなうことで、児童の書く力の育成を行なった。

#### 2. 活動報告

##### ①森川正樹氏によるご指導（8月）

子どもの「書く力の育成」を研究されている関西学院大学附属小学校森川正樹教諭に来校していただき、「書く力の育成」のご指導をいただいた。内容は書く力の育成に関するものだけでなく、児童一人一人が素直に自分を出せるための学級雰囲気作りや、学級経営にまでご指導いただくことができ、とても実のある1日となった。

教職員の指導後のアンケートより

「書く力の育成は作文をたくさん書かせればよいというものではないということが明確になりました。子どもたちの個性を受け入れてくれる学級の雰囲気づくりや仲間作りが欠かせないだけでなく、自分から「書きたい」や「書いてよかった」と実感させる取り組みを仕掛け必要なのだとわかりました。まさに、授業と学級経営の一体化だと感じた1日でした。2学期の始まりが楽しみになりました。」

②書く力の育成に焦点化した授業作り（8月～）学校公開（11月）授業内容や展開を検討し、11月に学校公開を行った。1年「くじらぐも」2年「お手紙」3年「モチモチの木」4年「ごんぎつね」5年「大造じいさんとガン」6年「やまなし」支援学級「書きたいことを中心に、感想文を書こう」を公開し、読むことと書くことを一対にした授業公開は、市内だけでなく、市外からもたくさんの先生に参加していただいた。当日用意した研究冊子には当日の学習内容だけでなく、そこに到るまでの1学期からの各学年の取り組みについて掲載した、充実した研究冊子となった。また、公開授業後の実践交流会でも活発な意見交流が行われた。実践交流会では、拡大用紙での提示が児童の理解に大きな助けになることや、カラーの挿絵が視覚的にわかりやすい黒板になっていることなども話題となった。



【左】カラーの挿絵を有効に活用し、くじらぐもに乗る登場人物たちの気持ちをふせんに書き込む〈1年〉

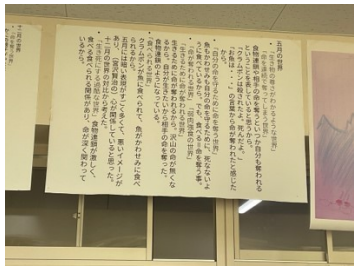
【右】物語の構造を拡大コピーで提示し、共有化しながら学習を進めた。



### ③成果

書くことに焦点化した授業改善および、他教科との連携を行うことで、書くことに意欲的に取り組む児童が増えた。その結果、校内に文字があふれ、自然に文字に触れる機会が増えた。

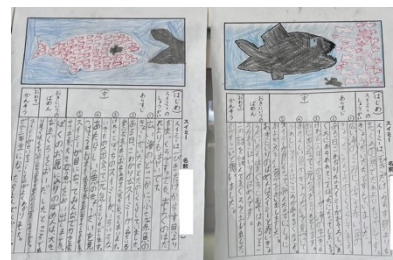
友だちの考えに触れる機会が増えたことで、意見の交流が活発になり、深い学びへとつながった。



6年生「やまなし」授業の児童の振り返りを一覧にして、掲示している。



2年生「スイミー」ひとりひとりの気持ちが一枚一枚に書かれている。



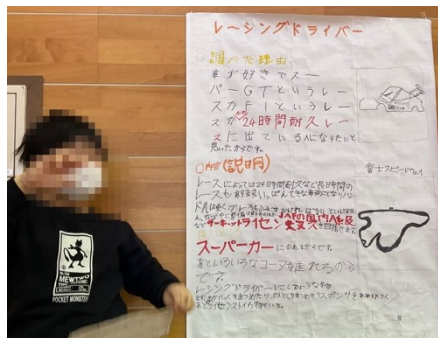
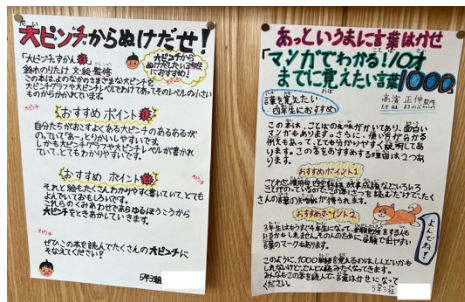
2年生「スイミー」授業のまとめの感想文をびっしりと全員が書くことができた。

自主学习ノートのコンテストを年5回行ったことで、内容の充実と意欲の上昇や提出率の向上がみられた。



【左】自主学ノートコンテストで受賞したノートを見にきている。【右下】また、4年生でも自分に興味があることを自ら調べることができるようになっている。

【下】年間で50冊以上の読書記録を残した児童が72%にのぼった。また、おすすめの本のポスターを委員会が作成し、貸し出し数が上昇した。



<キャリア教育>書く力で培った力で、自分の将来の夢について調べ、ポスターにまとめ、ポスターセッションを行った。一人ひとり、自分の夢をまとめ、語ることができた。

大きな成果として、年度始めの4月の児童の実態調査のアンケートでは、書くことに抵抗を感じている児童は32%いたが、2月の同内容の実態調査アンケートでは27%と、書くことに抵抗を感じている児童が5%減となった。このように、国語の授業を通して書く力の育成をおこなった結果、他教科での学習でも図や言葉を使って説明できる児童が増え、深い学びに繋がっただけでなく、自分の気持ちを表現したり伝えたりすることで、友だちどうしの相互理解につながり、友だちを大切にしようとする児童が増えた。その結果、落ち着いた雰囲気を持続して醸成することができている。